

日本自動ドア株式会社

自動ドアの寄贈、林業家育成など
社会貢献活動に積極的に取り組む

福祉施設等への自動ドア装置の寄贈、地方創生をめざした林業研修など、社会貢献活動に積極的に取り組んでいる日本自動ドア株式会社。自動ドアが持つバリアフリー、感染予防、省エネ、セキュリティ機能などの社会的な価値を創造し、発信し続けている。

(取材文：堀切孝治)



自動ドアはただ便利というだけでなく、車いすの利用者や歩行が不自由な人にとって、かけがえのないバリアフリー設備だ



医療機関や介護施設内のトイレのドアなどを自動化することは施設内感染防止のためにも重要



手をセンサーにかざすなど、ボタン類に触れなくてもドアが開閉する仕組みも開発されている

林業家の育成を通して
地方創生にもつなげる

「自動ドアは、車いす利用者など手でドアを開け閉めするのが困難な方に役立つバリアフリー設備です」と、日本自動ドア株式会社の吉原二郎代表取締役社長は説明する。同社が中心となって活動しているNPO法人全国自動ドア産業振興会では、2011年から福祉施設等に自動ドアを寄贈。これまでに全国で70施設以上に設置した。予算などの関係で自動ドア装置を交換・設置できない施設の状態を知った吉原社長は、社会の役に立ちたいという思いから、



社会貢献への熱い思いを語る吉原二郎
代表取締役社長

この活動に取り組んでいる。手を使わずにドアの開閉ができる自動ドアは、衛生管理の面でもメリットがある。同社では大学の研究機関と協力して調査研究を行い、ドアノブに付着している細菌が66%の割合で手に接触感染するという結果を得た。ドアノブに手を触れずに作業ができれば、施設内感染のリスクを減らすことにつながる。施設内のトイレなどの自動ドア化を推進するほか、独自の検査装置や除菌剤の開発も進め、公共的役割の大きな病院や福祉施設での衛生管理に寄与することに、社会的意義を同社は見出している。



自社の木製自動ドアの原料確保というだけでなく、治山治水の観点からも、林業に携わる人たちの育成は急務。その研修にも同社は取り組んでいる



木造建築物に似合う多彩なスタイルの木製自動ドアもプロデュース



同社の社会貢献は、これにとどまらない。林業を復活させて地方創生につなげたいという組織と協同し、林業家の育成にもかかわっている。林業は山林を管理するために不可欠な産業であり、治山治水の観点からも林業の復活は急務である。そこで、埼玉県飯能市の同社所有の施設と山林を利用して林業研修を実施。昨年からは春と秋の2回、年間60人が参加している。木を使うことをコンセプトにする新国立競技場のおかげで、木造建築が見直される流れもあり、同社の山林で育てた木を使う温かみのある自動ドアの製造も計画している。

社会貢献活動が
同社の存在意義に

同社が社会貢献活動に注力するようになったきっかけは、他社の大型自動回転ドアに子どもが挟まれて死亡した2004年の事故だったという。「自動で開閉すれば便利で安全だ」という程度に考えて

いた自動ドアの社会的価値や存在理由を改めて考えさせられた」と、吉原社長は振り返る。「ただ製品をつくるのではなく、社会に必要とされているものを提供し、存在意義を認められる会社にならないと、生き残れない」と、インフラストラクチャーとしての自動ドアの役割を再考した。「車いすの方が、自動ドアは自分たちにとってどうしても必要だと発言しているのを知り、大きな力を得ました」

自動ドアの寄贈や林業家育成などの社会貢献活動は、同社にとり欠かせないものとなった。現在、介護施設では認知症の人が勝手に施設外に出て行ってしまう徘徊対策が大きな課題だが、自動ドアで対処できるという。目につきにくいところにスイッチやセンサーをつけるなど、施設に応じた方法で入退出者の管理ができ、これはセキュリティの強化にもつながる。さまざまな角度で社会的な役割を追求する同社は、さらに注目を集めそうだ。

【企業概要】
日本自動ドア株式会社
〒165-0031 東京都中野区上鷲宮3-16-5
TEL: 03-3970-2511 http://www.jad.co.jp